

和 蘭

(イ) 一般制度(一九三三年)

千人 三、〇五〇  
千フロン 三、七三二

(ロ) 鐵夫制度

計 三三二  
三、〇八二  
三、七三二

瑞 典 (一九三三年)

國民保險制度

千人 三、九三〇

財團法人口問題研究會編雜誌「人口問題」第三卷第四號の刊行

財團法人口問題研究會に於ては季刊誌「人口問題」第三卷第四號を刊行したが、その内容を示せば次の如くである。

内容目次

講 演

最近の人口趨勢と人口政策

熊谷憲一

調査研究

人口の質的轉化の過程に關する一考察

醫師 陣峻義等

人口の質的要素としての民族性格の一考察

公衛 岩倉具榮

農林世帯現住人口論

植民政策の基準

明治初年の北海道拓殖論議

管子の土地人口に關する意見

人口動態の現象論的考察

本邦出生率調査の沿革とその歸納

滿洲國少數種族の減退

資 料

自由主義的人口政策の全貌

森岡正陽

人口の要素と社會現象との相互關係

布川靜淵

紹 介

獨逸人口の年齢別構成

林 芳郎

下條博士著「日本社會政策的施設史」

五十嵐達孝

附 録

世界各國別總人口及有業人口統計(林芳郎譯編)

人口問題第三卷總目次

財團法人口問題研究會編人口問題資料「我國の將來人口」の刊行

財團法人口問題研究會に於て開催した第十二回人口問題同攻者會合については本誌前號本欄所報の如くであるが、同研究會に於てはその記録を「我國の將來人口」なる題名の下に同會編人口問題資料第四十五輯として刊行した。その内容目次は次の如くである。

目 次

序に代へて——開會挨拶

人口政策確立要綱の目標と方策

企畫院調査官 美濃口時次郎

我國人口の趨勢と將來人口

人口問題研究所 調査部長 醫師 中川友長

人口一億の可能性

東京商大助教授 小田橋貞樹

一億人口の生物學的基礎

厚生科學研究所 所教授 醫師 川上理一

同攻者懇談狀況

參考附録——昭和十六年一月二十二日 閣議に於て決定せる人口政策確立要綱

一九四〇年獨逸大都市人口動態の發表

一九四〇年度に於ける獨逸の六十二大都市の人口動態は次表に見るが如く、一一・三の婚姻率は大量の戰時結婚を見た前三九年を除き之を三八年の一〇・六、三七年の一〇・一と照合して現下の戰爭が獨逸大都市の婚姻を殖少も阻害してゐないことを證明するものといつてよく、又一七・四の出生率はナチス治下に於ける獨逸大都市の示した最高の數字として大都市に於ける人口發展が極めて好調にあることを示してゐる。(Wirtschaft u. Statistik 1941, Nr. 4 所載)

(Wirtschaft u. Statistik 1941, Nr. 4 所載)

獨逸大都市の人口動態(一九四〇年)

總 數

	一九四〇年	一九三九年	
婚 姻	二七三、三一八	三四一、七七八	
出 生(2)	四三三、一八二	四〇三、四九七	
内、私 生	三五、九四〇	三九、〇三二	
死 亡(3)	三〇九、七七八	二九八、三六八	
内、結 核	一八、〇三四	一六、一五六	
心臟病	五〇、六九八	四七、九八九	
肺炎	二二、九二五	二二、八九六	
老 衰	一八、三九九	一五、七六七	
人口千に付			
婚 姻	一九四〇年 一九三九年	一九三八年	
出 生(2)	一一・三	一四・二	一〇・六
内、私 生	一七・四	一六・八	一六・二
死 亡(3)	一一・五	一〇・六	一〇・五
内、結 核	一一・八	一一・四	一一・四
	〇・七四	〇・六七	〇・六三